

## 4. 人文カフェ

◎参加人数 2名

### ◎活動の趣旨

本プロジェクトは、対話することによって、「考え続ける力」「聴く力」「発信する力」を身につけることを目標とする。その方法として、「てつがくカフェ」を中心としたさまざまな企画を計画・実施した。

「てつがくカフェ」とは、日常で当たり前としていることを、一度立ち止まって「そもそもそれとは何か」と問うことを大切にする、対話の場である。仙台では、公共施設である「せんだいメディアテーク」で実施されている。参加者は、年齢・性別・職業などといった社会的役割をまったく問わない。毎回、設定されたひとつのテーマをめぐって対話を重ねている。自分自身がこれに参加してみて非常に楽しいと感じ、自分たちの大学でも同様の企画をと思い、そのための枠組みとしてこの「人文カフェ」を立ち上げるに至った。また、ほかにも新聞や映画などといった身近なものについても複数の人が集まり対話する場を設定できればと考え、「てつがくカフェ」以外のさまざまな企画も実施することにした。

### ◎今年度の活動内容

#### (1) てつがくカフェ

対話を整理するファシリテータが進行役をつとめ、参加者の意見交換を促進しつつ、その内容を白板にメモする（ファシリテーション・グラフィック）。今年度は計4回実施した。第1回から第3回は「女子力」を、第4回は参加者からの希望で、LGBTQをめぐる問題すなわち「性」をテーマに実施した。なお第3回と第4回は、先述した仙台メディアテークでてつがくカフェを実施しておられる「てつがくカフェ@せんだい」からスタッフの方をお招きし、ファシリテータとファシリテーション・グラフィックを担当していただいた。

#### (2) 新聞を読もう

今年度から始まった、宮城学院女子大学と河北新報の連携協定プロジェクトの一環として実施した企画。新聞をまず個人でざっと読んだ後、その内容についてみんなで意見交換をする。年間で計2回実施した。第1回では、いわゆる新聞記事に加えて広告の内容や位置についても着目した参加者がいるなど、活発に意見が出た。第2回では、それぞれが目にした記事が異なり、そしてそれが個人の経験に結びついていた。どちらも、一人で読んでいただけでは感じられない新聞の面白さを体感する貴重な機会となったように思う。

#### (3) シネマカフェ

映画を鑑賞後、その内容についてみんなで話す企画。第1回は1993年のアメリカ映画である「恋はデジャブ」（原題: Groundhog Day）を取り上げたが、実施日が土曜日だったこともあり、参加者はいなかった。第2回は、てつがくカフェに継続的に参加している学生の希望で、2009年のフランス映画「プチ・ニコラ」を取り上げた。なおこの企画は、最初にまず参加者全員で映画を見る必要があるため、第1回は時間を考慮し土曜日の昼間に設定したが、土曜日はもともと授業が少ないことなどから非常に限られた人数しか集まらないことがわかった。平日の放課後の方が参加しやすかったと思われる。

#### (4) 読書会企画

あるひとつのテキストを読んだ後、その内容についてみんなで意見交換をする企画。テキストは、事前に読む必要がないようにと、ショートショートで知られている作家、星新一さんのテキストを選んだのだが、残念ながら参加者がいなかった。書籍をテーマとすると事前に読んでいないと参加しづらいとの印象を与えてしまったのかもしれないと思う。

#### (5) 「P4C」への勉強会参加

「Philosophy for children」の略称で、こどもの哲学の取り組み。現在小学校で行われている。先生がこ

## 4. 人文カフェ

どもたちに知識を与える授業方法とは異なり、こどもたちからの自発的な問いを促すための新たな試みである。たとえば、触ると柔らかい、毛糸でできた「コミュニティボール」を持っている人だけが発言できるといった決まりがある。宮城県では、宮城教育大学がこの企画推進の中心的役割を担っており、仙台市の一部の小学校で実施されている。宮城教育大学の先生からお声掛けいただき、11月28日、若林小学校で行われた「P4C」授業参観とその後の研修会に参加する機会を得た。「てつがくカフェ」とは異なる手法ではあるが、進行の仕方や参加をする上での態度は「てつがくカフェ」に通ずるものがあり、非常に勉強になった。

### ◆各活動の開催日程

7月5日	新聞を読もう	
7月29日	てつがくカフェ	「女子力」とは何か
10月9日	新聞を読もう	
10月21日	てつがくカフェ	「女子力」とは何か誰のため/何のためにあるのか
11月8日	シネマカフェ	「恋はデジャブ」
11月18日	てつがくカフェ	「男」と「女」における「女子力」のちがいは
11月25日	読書会	星新一「ゆきとどいた生活」
11月28日	P4C授業参観・研修会	
12月15日	シネマカフェ	「ブチ・ニコラ」
12月22日	てつがくカフェ	「私たちの性」について

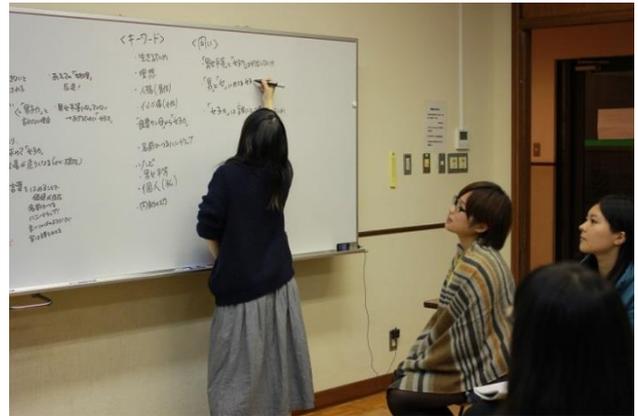
### ◎今年度の振り返り

まず、企画の広報のむずかしさを感じた。各企画に参加した人たちからは、楽しかったという声が多く聞かれたので、参加者に対話することの楽しさを実感してもらえたことはよかったと思うが、一方で、会場に足を運ぶに至っていない人たちに、興味を持ってもらうための広報上の工夫がさらに必要である。

また、企画やテーマに多様性を持たせることが大事だと感じた。企画は4つほど実施してきたが、それぞれ参加者が異なったことに注目したい。ある一つの企画には連続して参加していた人でも、そのほかの企画には参加しない、ということが多かった。

「てつがくカフェ」は、最初の3回は「女子力」をキーワードに、あまりテーマを変えずに連続開催したが、その後、「性」というテーマで実施した際、このテーマだから来た、という初参加者の声が聞かれ

た。以上のことから、一貫したテーマや方法で思索を深めることも重要であると思うが、企画やテーマに多様性をもたせることによって、より多くの学生に興味を持ってもらえるように思われる。



「てつがくカフェ」の様子



「新聞を読む」の様子